

海津城の主たち



開催にあたって

長野市に所在する松代城は、武田信玄が川中島の戦いに際して築城した海津城にはじまります。武田信玄の城として築城された城ですが、その後、北信濃の支配の拠点として重要な役割を担うこととなります。江戸時代になると真田信之が入封し、その後は松代藩主真田家の居城という性格を持つこととなります。

この展示では、海津城（松代城）を支配拠点とした人物を取り上げます。武田信玄、武田勝頼、森長可、上杉景勝、森忠政、松平忠輝、松平忠昌、酒井忠勝、そして真田信之。彼らが活躍した時代の海津城の持つ機能や当時の北信濃支配の様相などを描きます。

目次

《図版》

第一章	海津城築城以前の様子 — 寺尾氏と清野氏 —	3
第二章	海津城の築城と寺院	6
	武田信玄と海津城の築城／城にまつわる社寺	
第三章	武田家の滅亡と海津城	20
	森長可の城／上杉景勝と海津城の須田満親	
第四章	家康への忠義と真田との戦い — 森忠政と関ヶ原の戦い —	25
第五章	もうひとつの大坂の陣 — 松平忠輝の失態 —	31
	忠輝の父と母と妻と／松平忠輝の支配／	
	おねと茶阿と忠輝と／花井父子と忠輝／花井家の名宝	
第六章	松代藩領の成立	44
	松平忠昌の治世／酒井忠勝の治世	
第七章	真田信之の入封と松代藩・真田家の成立	47
	本丸御殿の時代／花之丸御殿の時代	
《総説	海津城の主たち》	51
《作品解説》	59

凡例

- 一、この図録は、平成二十八年四月二十三日から六月五日まで、長野市立博物館で開催される企画展示「川中島を行き交った武将たち」にあわせて作成された。
- 一、図版の作品番号は陳列番号と一致するが、陳列の順序とは必ずしも一致しない。
- 一、作品保全のため、図録に掲載された作品が会場に陳列されない場合がある。また随時展示替えを行う。
- 一、本書掲載写真は、(一)所蔵者から借用した写真のほかに、次の個人、機関よりご提供いただいた。(敬称略)
 - 本田諭(作品22)、可児市教育委員会(作品25、作品26)、藤森武(作品76)
- 一、本書掲載写真の一部は、大井川茂兵衛氏に撮影を委託した。
- 一、本展の企画、図録の執筆は原田和彦が行い宮澤崇士・竹下多美が協力した。また、図録の編集は小森明里が行った。
- 一、本文中での用語は時代により変遷するが混乱を避けるために統一した。たとえば、
 - ①海津城は松代城と城の呼び名は変わるが、海津城で統一した。
 - ②蓮光寺の標記は、江戸時代に練光寺とされるが、蓮光寺で統一した。
- 一、本展の開催にあたり、多くの個人ならびに機関からご教示いただいた。巻末に記し感謝の意を表する。

海津城の城主ほか変遷

領主	城将	城代	城代・城将の場合その権限	参考事項
武田 信玄 武田 勝頼	春日 虎綱 (かすが とらつな)	春日 信達 (かすが のぶたつ)	春日虎綱に与えられた権限と同じ	東条城(尼飾城)は、永禄元年を最後に見えなくなる 海津城の初見は永禄3年9月23日の書状
		安倍 勝宝 (あべ かつよし)	春日虎綱に与えられた権限と同じ	
		織田 信長	森 長可 (もり ながよし)	
上杉 景勝	村上 景国 (むらかみ かげくに)	村上 景国 (むらかみ かげくに)	春日虎綱に与えられた権限と同じ	村上義清の子
		上条 宜順 (じょうじょう ぎじゅん)		景勝の妹婿
		須田 満親 (すだ みつちか)	①北信地域の軍事指揮権(景勝の判断を仰ぐ必要なし) ②警察権と裁判権(景勝に指示を仰ぐ必要なし) ③出陣の際には、軍役を2倍にして提供させることができる	越中での功労者 かなりの権限を与えられる
田丸 直昌 (たまる なおまさ)				4万石 残りは太閤蔵入地
森 忠政 (もり ただまさ)				
松平 忠輝 (まつだいら ただてる)				
松平 忠輝	花井 吉成(佐左衛門) 忠輝重臣 花井 義雄 忠輝重臣		松平忠輝が越後福島城に移り、高田領の一部となる 2人とも忠輝重臣 権限は分からない	墓は長野市松代町 西念寺 このとき大坂の陣がおきる 義雄は切腹
		松平 忠昌 (まつだいら ただまさ)	12万石の松代藩領国成立	結城秀康次男 のち福井藩主へ
酒井 忠勝 (さかい ただかつ)				山形城主・最上改易で鶴岡へ
真田 信之 (さなだ のぶゆき)				上田城から